

はと時計 12月号

2025年12月8日発行

本と雑誌で振り返る 2025年

今年も色々なことがありました
みんなの記憶に残るのは、どんな出来事でしょう
本と雑誌を通して、この一年を振り返ってみます

松蔭中高図書館 library@shoin-jhs.ac.jp 担当：井上

『40℃超えの日本列島で
ヒトは生きていけるのか
体温の科学から学ぶ猛暑のサバイバル術』
永島計著 化学同人 2019

まったく、ひどい猛暑でした。記録の残る
1898年以降で、最も暑い夏を経験しましたね
題名だけでもうんざりしてしまいますが、内容
はいたって真面目で地道。人と暑い環境との関
わりについて知り、じっくり考えていきましょう

『歌舞伎一年生
チケットの買い方から観劇心得まで』
中川右介著 筑摩書房 2016

映画『国宝』が異例の大ヒットとなりました
観客の熱量は劇場の外まで続き、映画に引っ
張られる形で歌舞伎という芸能へ興味を持ち、
実際に観劇される方まで増えたとか
あまり歌舞伎になじみがない方も、こちらを参考に、おでかけするのも楽しそうです

『TIME '25.05.26
AN AMERICAN POPE LeoXIV』
TIME社 2025

映画『教皇選挙』がアカデミー賞を勝ち取る
中、現実の世界でもコンクランベが行われました
歴史上初のアメリカ出身教皇、レオ14世につ
いて、多くの雑誌が取り上げています。『TIME』
は7/28号でも特集し、『文藝春秋』7月号では
今回投票された日本人枢機卿の体験記も

『Casa BRUTUS '25.10
EXPO 2025 万博最終案内』
マガジンハウス 2025

「大阪・関西万博」が開催されました
少し電車やバスに乗るだけで、どれだけミック
ミックに出会ったことでしょう。関係者へのインタ
ビューに、人気パビリオンやレストラン・カフェ情
報など、素敵な写真を盛りだくさんでお届け!
読みながら、思い出をたどってみてはいかが?

『Newsweek '25.09.16/23
世界が尊敬する日本の小説 36』
CEメディアハウス 2025

『ババヤガの夜』が英国でダガー賞
(翻訳部門)を受賞しました
近年、日本語作品が、優れた翻訳に
後押しされ、海外で評価されることが
増えています。挙げられた36作の中
に、ご存知のものはあるでしょうか

『日本のスゴイ科学者
29人が教える発見のコツ』
朝日学生新聞社 2019

ノーベル生理学・医学賞と化学賞に、
日本から受賞者が二名選ばれました
受賞前の坂口先生が、こちらの本で取
り上げられています。『Newton』12月号
では、いちはやく緊急特集! 過去のイン
タビューをmajieで、受賞内容の解説も

『百姓貴族 I』
荒川弘著 新書館 2009

各地でクマの襲撃が相次ぎました
クマによる人や物への様々な被害をま
とめて、熊害(ゆうがい)と呼びます。
日々ヒグマと隣りあわせの大地に暮らす、
北海道民の体験談が面白怖すぎます
クマ、会ったらぜったい勝てません

『72時間生きぬくための101の方法
子どものための防災BOOK(改訂版)』
夏緑著 童心社 2024

「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました
地震へ警戒するように! と呼びかけられて、驚
いたり戸惑ったりする方も、多かったのでは?
他にも大雨、山火事、竜巻と、地球に振り回さ
れることが多くありました。いつでも対処できるよ
う、72時間、と胸に刻んで、心構えを忘れずに



今年の1冊



4人の司書が2025年ならではの本を紹介します。

わたしたちが、当たり前に毎日食べているお米。その主食であるお米が、今年は品切れになったり、値段の高騰が起こったりしました。「お米が高くなっている」という話題を耳にした方も多いのではないでしょうか。食料の問題はこれからどんどん大きくなっています。と改めて感じた1年でした。「ちくまQブックス」シリーズの『いちばん大切な食べものの話 どこで誰がどうやって作ってるか知ってる?』(小泉武夫・井出留美著、筑摩書房、2022)は、今、日本が抱える食べ物についての問題を、読みやすくコンパクトにまとめた本です。食料自給率の低さ、安さを優先する食品メーカーの姿勢、まだ食べられる食品を捨てている問題、家畜を狭い場所に閉じ込めている問題など。わたしたちが普段は何も考えず口にしている様々な食べ物の背景について考える一歩になる本です。同じQブックスで『SDGs時代の食べ方』(井出留美著、筑摩書房、2021)が出ており、こちらはクイズ形式で食べ物に関する問題がわかります! (大利)

『Be TARO! 岡本太郎に出会う本』(学習研究社 2006)

万博が催されましたし、昭和100年ですし。改めて、岡本太郎という方を、おさらいしたくなっています。

岡本太郎の言葉は刺激的で、独特の迫力があります。名言集のような本はたくさん出ています。それこそ図書館にもたっぷり所蔵されています。けれど、それらの多くは、前後の文脈をあまり考えていない、短くて、分かりやすい内容です。それだって、良いものです。ただ、抜き出されたものは、受け止める側の解釈次第で、勝手な意味を持たれてしまうこともあります。同じく刺激的で、独特の迫力を持つニーチェの言葉が、悪用されてしまったように。

なので、みんなひっくり返して、知りたかったのです。

この本には、歴史あり、作品あり、人物あり、もちろん言葉もあり。太陽の塔はペーパークラフトでそびえ立ち、TAROカードの付録つき。入門編として優秀な、読みやすく楽しい一冊です。どう、岡本太郎は言っていた? (井上)

今年、世界の文化が集まる祭典として大阪・関西万博が開催されました。万博会場に足を運んだ人や、ニュースでぎわっている様子を見た人も多いのではないでしょうか。一方で、外国人に対する排他的な言説に触れることも増え、多様な文化や価値観を尊重する万博の盛り上がりとのギャップに、不思議な気持ちになることもありました。

そんなときに、タイトルにひかれ手に取った本が『人種は愉快なジグソーパズル』(小手鞠るい著 河出書房新社 2025)。人種の違いを「問題」ではなく、「魅力」と捉えて書かれたエッセイです。アメリカで33年暮らしている著者による合言葉は、「みんなおんなじ地球人」。国や言葉、生活習慣が異なっていても、私たちはみんな地球人のひとりですね。(福永)

【ネタニヤフ調書】という映画を見ました。汚職をごまかし、自分の政権を長引かせるために戦争を続けるイスラエルの大統領...恐ろしい映画でした。今年亡くなったウルグアイの大統領だったホセ・ムヒカとは対照的。自分の給料のほとんどを貧しい人に寄付し、公邸に住まず、身なりをかまわない。そんな彼がブラジルで環境について話し合う国際会議で行ったスピーチが『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』(くさばよしみ編 汐文社 2014)。最初、あまり興味を持たれなかった会場に、演説が終わったとき大きな拍手がわきおこりました。人間は幸せになるために生まれてくる、今の社会は一番大切なことを見失っていないだろうか? 貧しいとは持つものが少ないのでなく、無限にものを欲することではないか。

クリスマスのこの時期にわずか32ページの絵本、ぜひご一読を。(眞鍋)

冬休み

2025年は12月26日(金)まで、
2026年は1月5日(月)から開館します。

8:45-16:15

冬休み貸出実施中。10冊まで借りられます。
返却日は1月8日(木)

